日本鐵鋼協會第 16 回講演大會概況報告

本年4月本大會の開催を九州工業地帶の中央且つ同地の最高學府の所在地福岡市を最好適地として選定し、準備、計畫、實行の爲現地有力者より大會實行委員長 1 名、實行副委員長 2 名、實行委員 29 名を推薦し本部と現地の協力の結果 9 月漸くプログラムを完成したり、時恰も九州鑛山學會の第 15 周年記念會と期を同くせる故之と協調し秋正に酣の候好晴に惠まれ次の通り盛大に開會した。

實行委員（順不同）

實行委員長	九州帝國大學工學部長	工學博士	寺野　寛二君
實行副委員長	八幡製鐵所研究所監事	工學博士	金子　恭輔君
同	九州帝國大學教授	工學博士	井上　克巳君
實行委員	九州帝國大學教授	工學博士	今井　弘君
同	同　教授	工學博士	谷村　熙君
同	明治專門學校教授	M. Sc.	嘉村　平八君
同	三菱長崎造船所材料試驗場長	工學士	佐々木新太郎君
同	八幡製鐵所製鋼部長	工學士	城　正俊君
同	淺野小倉製鋼所支配人		中村　爲嗣君
同	九州帝國大學助教授	工學博士	小川　芳樹君
同	九州帝國大學助教授	工學士	伊藤　尙君
同	九州帝國大學工學部冶金學教室	工學士	竹山　和達君
同	八幡製鐵所研究所技師	工學博士	谷口　光平君
同	八幡製鐵所ロール課技師	工學士	高橋說次郎君
同	九州帝國大學工學部冶金學教室		太郎良　績君
同	安川電機製作所社長		安川第五郎君
同	淺野小倉製鋼所專務取締役		末兼　要君
同	八幡製鐵所取締役技師長	工學士	鵜瀞　新五君
同	東京製綱株式會社小倉工場長		香月　五郎君
同	國產工業株式會社若松工場長		堀岡　利一君
同	東海鋼業株式會社工場長		伊藤九萬一君
同	渡邊鐵工所檢査課長		鎌田喜志衞君
同	安田製釘所々長		瀧川岩太郎君
同	唐津鐵工所取締役		近藤　淳直君
同	三菱長崎造船所電氣製鋼場々長	工學士	中村　道方君
同	八幡製鐵所鋼板部長	工學士	水谷　浩君
同	八幡製鐵所條鋼部長	工學士	岡崎　泰祐君
同	黑崎窯業株式會社工場長		高良　淳君
同	日本タール株式會社牧山工場長		井上　勝一君
同	門司鐵道局小倉工場長		桃島　太郎君
同	國產工業株式會社戸畑工場長		鳥井　益友君
同	八幡製鐵所陸軍監督官	砲兵少佐	小籔　重行君

講演大會　第一日　昭和 11 年 10 月 17 日（土、祭）午前 9 時開會、晴

會場　九州帝國大學工學部大講堂

定刻の振鈴を會圖に寺野委員長次の如く開會の挨拶を述べ本大會のトップ切られたり。

開　會　之　辭

日本鐵鋼協會第 16 回講演大會實行委員長

九州帝國大學工學部長　工學博士　寺　野　寛　二君

此の度日本鐵鋼協會第 16 回講演會を當市に於てお開き下さるに當つて不肖寺野が實行委員長のお役を仰付つて本日此所に開會の辭を述べる事は誠に光榮とするところであります。

今回、我國各種工業の發展は實に目醒しいものが御座ゐます、就中金屬殊に鐵及鋼工業の發達は基本工業としまして、各種の工業の進歩に對して如何に重要なる役目をして居るかと云ふことは私の申上ぐる迄もないことゝ思ふのであります

然して技術の錬磨發達と、經營の合理化とは工場能率を增進致しまして。生產原價を低下し、他方品質の向上と相俟て今日に於きましては、遂に、歐米諸國の商品に對しても遜色を見ないに到りました。嘗てはメイド・イン・ジパンと云へば劣等品視されたのでありますが、今日我國の製品は往時に比べ實に隔世の觀が有ります。

斯の如く進歩致しましては實に斯界の各位の努力の賜物であると云ふ事は申上ぐる迄もないことであります、此品質の向上と他方多量生產に依る價格の低減とによりまして、今や世界に向つて市場を開拓しつゝあると云ふ狀態でありまして、實に、我國產業の前途多事ならんとするものなりと思ふのであります、然し乍ら世界の現狀は實に不安定でありまして各國軍備の擴張に汲々たるの際に於て各國斯界は日に月に新なるものがあるのであります。此の際我々一日も忽にする事は出來ないので益ゝ研鑽努力、以つて國家將來に重大なる役目を果さなければならないと思ふのであります。

當協會は本日茲に講演會を開き權威ある諸彥の御集りを願ひまして其の御研究を發表になり、互に其蘊蓄を傾けらるゝと云ふことは實に、最も、適當なる企であると信ずるのであります。

當市は御承知の樣に昔から支那併びに朝鮮との交通の要路に當つて居りまして、歷史的には相當色々な物語が御座居ま

す。「三韓征伐」「遣唐使」等、當時支那と日本との政治の中心であり、警備の中心でありました。太宰府が近くにあります此の邊は當時に於きましては、盛に支那の船が來て居つた所であります。

先年此の大學を建る際など地面の下から當時の古い支那の陶器が多數出て參りました。斯くの如く此の邊の砂の中には澤山支那の陶器が這入つて居るのであります。御承知の樣に文永の役に當時元軍が此の邊に襲來致しまして、戰酣の時多々良川に上陸して、箱崎の日本軍の脊後に迫り、此の邊は燒かれたのでありますが、其夜博多灣に暴風が有て元軍の船が大破損をして退却したのであります。それに懲りて今津の方から多々良にかけて石垣を作つたのであります。此の防壘は弘安四年再度攻め來た時に、之によりまして敵の上陸を一歩もさせなかつたのであります。此の防壘は今でも今津の邊に殘つて居ります。

一部は大學の中の冶金學實驗室の傍にも御座ゐます、若し御趣味が御座居ましたら屋上にお上り下さいますと其の當時の事が窺はれるのであります、然し乍ら工業として古來博多織、博多絞り、博多人形の他見る可きものはなかつたのであります。

明治から大正にかけまして、鐘紡博多工場、大日本麥酒會社、日本足袋工場が出來ました。近くは渡邊鐵工所が航空機の製作にかゝつて居ります、現在の所、工業としては各位の御參考になる樣なものは無いのでありまして、其點甚だ遺憾であります。北九州の工業地帶、長崎の方に之からお出遊になつて御見學になる事の出來ますのが幸と思つて居ります。

尙、終りに申上げますが、當大學は明治 44 年の創立でありまして今年は丁度 25 周年を迎へます、大學と致しまして實は、此の大會と同時に、25 周年祭を行ふ豫定で御座ゐましたが色々な譯で二週間ばかり延期致しまして、本大會と同時にやる事とならないのは甚だ遺憾でありますが、期日は多少違ひますが創立 25 周年の記念に際しまして權威ある諸君の御集りを願ひまして此の大會を大學に開いて戴くと云ふことは、我々關係者として非常に喜ばしい次第であります、其の點深く此の會の幹部に對して感謝して居る次第であります。

私は何も役にはたゝないのでありますが、各實行委員に夫々分擔して準備して戴きましたが、皆樣方に充分滿足を得なかつた點があるかも知れませぬが其の點惡しからず御容赦を願ひます。

甚だ簡單で御座ゐますが之を以つて終ります。(拍手)

午前9時 10 分より、水谷日本鐵鋼協會々長の司會の下に堀田秀次君（二三質疑應答あり）小島義正君(二三質疑應答あり)鍛內周三郎君(二三質疑應答あり)の講演番號第3迄演了し 10 分休憩に入り

午前 10 時 45 分開會、井上克己博士司會の下に、矢島忠和君(二三質疑應答あり）下村佳夫君（質疑應答あり）遠藤信君の講演番號第6迄演了時恰も正午を告ぐ、晝食 40 分間休憩

午後1時開會、久保田省三君司會の下に、太田淸君（二三質疑應答あり)元森信夫君(質疑應答あり）横山均次君の講演番號第9迄演了し 10 分間休憩に入る。

午後 2 時 15 分開會　前會長鹽田博士司會の下に五十嵐勇君(質疑應答あり）稻村賢三君（質疑應答あり）今井弘君の講演番號第 12 迄演了し休憩に入る。

午後 3 時 45 分開會　齋藤大吉博士の司會の下に、西村秀雄君(二三質疑應答あり)岡本正三君の講演番號第 14 迄演了し 10 分間休憩に入る。

午後 4 時 40 分開會　島岡本會監事司會の下に、野田浩君、大塚誠之君（二三質疑應答あり）等講演番號第 16 迄演了し第1日のプログラムを最も順調に經過す、終了後去昭和9年本會第 14 回講演大會に於て昭和製鋼所久留島取締役撮影の本會々員の滿洲弓長嶺の見學狀況を 10 分間映寫した、以上の通にして最盛會裡に散會せり。

講演大會　第二日　昭和 11 年 10 月 18 日(日)午前9時開會、晴

會場　九州帝國大學工學部大講堂

定刻振鈴　前會長河村博士立つて第2日の講演會開始を宣し直ちに司會者席に移る同博士司會の下に講演番號第 17 齋藤豐三君（質疑應答あり）に初まり高尾善一郎君（二三質疑應答あり）澤村宏君の講演番號 19 迄で演了し 10 分間休憩に入る。

午前 10 時 45 分開會　金子實行副委員長の司會の下に多賀谷正義君、横山武人君、藤井寛君の講演番號第 22 迄演了す時恰も正午を告ぐ（晝食休憩 40 分）

午後1時開會　前會長俵博士の司會の下に、田畑農夫君、太田雞一君、(二三質疑應答あり）岡田實君の講演番號第25迄で演了し 10 分間休憩に入る。

午後2時 25 分開會　川上義弘博士司會の下に、佐々木新太郎君菊田多利男君、岩崎航介君、俵國一君の講演番號第 29 迄で演了し本講演會プログラムを全部演了し盡せり。最後に會長水谷博士立ちて次の通り閉會の挨拶を述ぶ。

講演會閉會の挨拶

日本鐵鋼協會會長　工學博士　水谷叔彦君

二日間に亙る講演會は之で終りました。講演者諸君には日頃精進して調査、研究になりました結果を御發表下さいまし